

意見陳述書

平成24年9月21日

佐賀地方裁判所民事部合議2係 御中

原告 人 見 やよい

1 はじめに

私は、福島県郡山市に住む人見やよいと申します。郡山市は福島第一原子力発電所から直線距離でちょうど60kmのところにあります。仕事はフリーライターで、現在は、情報誌でインタビュー記事を書いています。

2 事故直後の混乱と恐怖

2011年3月11日、私は、近所の100円ショップで買い物をしていました。1度目の地震が起きて、すぐ続けて立ってはいられないほど大きな揺れが起きました。瀬戸物が並べてあったショーケースがガシャンガシャンと倒れ、店の天井から蛍光灯が割れ落ち、私たちは床に散らばった商品を踏みつけながら外へ逃げました。

あわてて家に帰ると、屋根瓦やテレビのアンテナが落ち、壁にひびが入り、室内は足の踏み場もないほど物が散乱していました。とんでもない大地震だった…とは思ったものの、まだその時はこれほど苛酷な原発事故につながるとは、そして大切な福島が奪われていくことになるとは、思いもしませんでした。

事故後の情報源は、インターネットとワンセグTVでした。「非常用電源が稼働していない」「原子炉の水位が下がって炉心がむき出しになっている」といったニュースが、細切れに伝わってきました。けれども、まさか水位が下が

りっぱなしのはずがない、注水できないなんてあり得ないという気持ちがどこかにあり、ニュースを信じられない、信じたくないという両方の気持ちが入り混じって、素直にニュースを受け止めることができませんでした。

我が家は両親と私と犬が一匹。86歳の父は、4年前に脳出血を起こしてからベッドに寝たきりでほとんど動くことができません。炉がメルトダウンし、核爆発を起こす恐れがあることも分かってきましたが、動けない父を連れて、どうやってどこに逃げればいいのかわからず、かかりつけの病院から離れることも不安で、そもそもガソリンが残り少なかったこともあって、避難を決断できませんでした。

そうこうしている間にも、避難地区は、5キロ、10キロと目を追うごとに広がっていき、我が家の上空を、自衛隊のヘリコプターが四六時中行き交いました。常に揺れているかのような余震とヘリコプターの振動に、恐怖で夜も眠れなくなりました。

事故から数日後、親しい友人たちから、「私は逃げます。誰かが逃げないと、皆が逃げにくいから。」というような連絡が入り、友人たちが他県に避難していきました。そういう連絡が入る度に、ああこの人も逃げた、あの人も逃げるんだという思いで、私は血の気が引くようでした。避難することがベストの選択であることはわかっていましたが、家族を連れて動けない状態でした。それに、「直ちに健康に影響はありません。」「安全です。」との報道にすがりたい気持ちもあって、どうしても決断ができませんでした。「まずは一刻も早く遠くへ」という原発事故後のセオリーを生かすことができず、そのことは、今も後悔しています。

今年の2月に父が亡くなり、母と二人になりました。父は、寝たきりでしたが、頭ははっきりしていましたし、ニュースも見ていましたから、当然、原発事故のことは知っていました。でも、事故や避難の話は亡くなるまで一言もしたことがありません。父が避難のことをどう思っていたかはわかりません。でも、もしかして、父が自分のことを避難の足手まといと考えているかもしれな

いと思うと、それを父の口から聞くことが怖くて、私の方から避難の話をすることはできませんでした。

3 事故後の日常生活

原発事故後、福島暮らしは一見平穏に見えながら、静かな恐怖に包まれています。

日常生活は変わりました。花見の季節、美しい桜の下を歩くことが憚られます。樹木の下は放射線量が高いのです。公園に行っても、ベンチに座ることができません。バッグをベンチに置いていいのかどうかにも不安がよぎります。私がガイガーカウンターを入手できたのは昨年6月9日でしたが、電源を入れたとたんアラームが鳴り響き、震えあがったことを今も思い出します。そのガイガーはウクライナ製で、毎時0.3マイクロSvで警告が鳴る初期設定でした。郡山市の場合、そのままの設定ではアラームが鳴りっぱなしなので、やむなく1.5マイクロSvに引き上げて使うことにしました。現在の我が家は、室内で0.2マイクロSv、屋外で0.4マイクロSvくらいの線量です。どこへ行くにも線量計を手放せず、窓の開け閉めにも気を使います。

市の水道水は、ND（不検出）という発表がされていますが、我が家では念のため逆浸透膜浄水器をつけました。食べ物に関しては、市場に出回っているものは検査済みであるということを知りて買うしかありません。郡山市では全ての公民館に1台ずつ食品の放射線測定器が設置され、市民が放射能を測れるようになりました。近所の人から庭先野菜を届けてくださることがありますが、その時も、公民館の食品放射能測定を受けてから来てくださいます。おすそ分けするにも、「放射能は出なかったよ」という言葉を添えなければ、かえって、あげた相手に対して迷惑になるかもしれないとの気持ちがあるからです。仕事でインタビューをすると、多くの若いお母さんが「おばあちゃんが庭で作っている野菜は絶対食べない。」と言います。大切な人に食べてもらいたいと思って作った野菜がもとで、家族間に亀裂ができていくケースはとて多いです。

どこまで注意すればいいのか、いつまで不安でいけばいいのか、誰も正解を
知りません。事故後26年が経つチェルノブイリでは、今も「測って食べる」
が日常だそうですから、この不安は一生続くものかと覚悟しています。

「ここはもはや安全に暮らせる場所ではないのだ。いつかは放射能の洗礼を
受けるだろう」という思いが、誰の上にも少なからずあります。福島市では、
「今も避難を希望している人」が34%、「子どもの将来が不安」と答えた人
は89%、「福島は孤立している」と感じる人が62%にもものぼっています。
その恐怖心の強さは、人によって違い、安心だと信じたい人もいるし、叫び出
したいほどの不安を抱えて暮らしている人もいて、家族間でも意見のズレがあ
ります。事故後は「二極化」といわれましたが、今は、何を食べるか、何を着
るか、どこに行くのかなど些細なことで、100人いれば100通りの考え
方・受け止め方があるくらい、みんながバラバラになっているように感じます。

原発事故から1年半経って、皆、投げやりな気持ちになっているように感じ
ます。事故直後、高い線量の中で過ごして被ばくした人は、事故直後よりも低
い今の線量の状況で逃げる決断ができないでいる一方、被ばくのリスクも受け
入れられず、疲れてしまっています。誰の中にも、確実に健康リスクが高まっ
ているという意識があります。郡山の駅前で、ミニスカートをはいて素肌を直
接ベンチにつけて座っている女子高生に、「被ばくするからそんな格好しない
方がいいよ。」と言うと、「どうせ長生きしないからいい。」と言われたことが
あります。

皆、将来への不安を抱えて疲れきっています。

4 原発事故で失われた将来への希望

福島は美しく、海や山の実りに恵まれ、私たちは、10年後も20年後も1
00年後も平穏に暮らしていけるはずでした。3.11事故以前、私は、20
年後には年老いて土をのんびり耕して自家製の野菜を作るような、平穏な生活
をするのだろうと思いつかべていました。でも、今、私は20年後の平穏な生

活を思い浮かべることができません。

無農薬にこだわって作物を作ってきた農家さんの話を聞くと、離農を決めた方もいれば、一か八かのバクチのような気持ちで作物を作り、放射線検査を受けている方もいます。「農業は一生できる仕事だったのに、いきなり定年をくらった。会社の定年と違って、何の準備もなく退職金もなく、作物を作るなどという。これから何を生きがいに生きていけばいいんだ」と話してくれた方もいました。自然の恵みを受け取ることが憚られ、日本生態系協会の池谷会長には「福島出身者とは結婚しない方がいい」とまでいわれているのに、私たち県民も、生まれてくる子どもたちに奇形や病気の可能性が高いことを薄々感じているので、それを否定することもできないのです。女子高校生から、「私は子どもを産んでいいの。」と聞かれたことがあります。「子どもを産めるの。」ではなく、「産んでいいの。」と聞いたのです。私は、答えに窮しました。そんな言葉を口にしないといけなくなった福島の子どもの状況は、あってはならないことだと思います。

原発事故が起きたために、私は、将来の幸せな生活を思い浮かべることができません。いつか健康に大きな被害が出るのだろうと、不安を抱え続けて生きています。こんな想いは、福島でおしまいにしてほしいです。

5 最後に

さよなら原発集会に参加して、「ふるさと」を合唱することがあります。日比谷公園の集会では、「ふるさと」の歌詞を「ふくしま」に替えて歌いました。山は青きふくしま、水は清きふくしま、忘れがたきふくしま…。この歌を歌うとき、今も涙が止まりません。原発事故で失われたものは、何よりも大切なふるさとです。私の一番の望みは、もとの福島です。福島を返してください。

でも、それは、もう、叶わないことです。それならば、まだ汚染されていないところは大事に残して欲しいです。これ以上、生きていけない土地を増やさないでください。私たち福島の間人が最後に避難していける土地、安全な食べ

物を作ってくれる土地を汚さないでください。

事故が起きてからでは何もかも手遅れなのです。住むことはおろか、そこに近づくことも難しくなるのです。

事故が起きる前に原発から撤退すること。それだけが、未来へ命をつなぐ道筋だと思います。

以上